

中央教育審議会教育課程部会

(平成 17 年 7 月 19 日開催)

関係資料(抄)

- 資料 6 現行学習指導要領における家庭科, 技術・家庭科について
- 資料 7 現行学習指導要領における情報科(高等学校)について
- 資料 8 現行の学習指導要領の成果と課題, 見直しに関する意見(例)
- 芸術, 技術・家庭, 情報 - (抜粋)

現行学習指導要領における家庭科，技術・家庭科について

1 家庭科，技術・家庭科のねらい

- ア 実践的・体験的な学習活動を通して，生活に必要な知識と技術を習得させ，生活をよりよくしようとする能力と実践的な態度を育てる。
- イ 生活と技術とのかかわりについて理解させ，工夫し創造する能力を育てる。
- ウ 家族の構成員としての自覚をもたせるとともに，家族・家庭の意義について理解させ，男女が協力して家庭生活を築いていく意欲をもち，その充実向上を図る能力と態度を育てる。

2 家庭科，技術・家庭科の内容構成

ア 授業時数・単位数

学校種別	小学校		中学校			高等学校 ()内は標準単位数
教科名	家庭		技術・家庭			必修
学年	5	6	1	2	3	家庭基礎(2) 家庭総合(4) 生活技術(4)
年間授業時数	60	55	70	70	35	
週当たり授業時数	1.7	1.6	2	2	1	

(注) 上記のほか，中学校においては，選択教科としての「技術・家庭科」を第1学年は年間30単位時間の範囲内で，第2学年及び第3学年は年間70単位時間の範囲内で開設することができる。

(参考)平成10年(高等学校 平成11年)学習指導要領改訂における改善点

(1) 目標の見直し

小・中学校では、実践的・体験的な活動を一層重視する等の観点から目標を見直した。

中学校では、教科目標を具現化する目標として、技術分野及び家庭分野の目標を示した。

高等学校では、普通教育と専門教育の家庭科を同一の目標としている扱いを改め、普通教育としての家庭科の目標を示した。

(2) 内容構成の見直し

小学校では、3領域(被服,食物,家族の生活と住居)の構成から8つの内容に整理統合し、2学年まとめて示した。

中学校では、11領域(木材加工,電気,金属加工,機械,栽培,情報基礎,家庭生活,食物,被服,住居,保育)構成から、技術分野及び家庭分野の2分野に再編した。

高等学校では、普通教科と専門教科の家庭科を同一としている扱いを改めた。

(3) 内容の厳選

日常生活と関連を図りにくいものや技能・理解の程度が高くなりやすい内容について厳選を図った。

小学校...「簡単な装飾」「ほころび直し」等(削除)

「日常着の選び方」「栄養素とその働き」等(中学校へ移行)

中学校...「電気機器の仕組み」「整備の目的に応じた分解と組立」(厳選)

「家庭の収入と支出」「手芸」「住空間の計画」(削除)

(4) 実践的・体験的な学習の充実

小・中・高等学校を通じて、各内容の学習を生かして課題に取り組むことができるよう実践的・体験的な学習を重視した内容とした。

小学校...内容の相互関連を図りながら柔軟に題材構成ができるようにした。

児童の興味・関心に基づく学習を充実する等の観点から題材選択ができるように改善を図った。

中学校...生徒や地域の実態に応じた学習活動が展開できるよう、使用する材料等の指定を避け題材について弾力化を図った。

幼児との触れ合いなど実践的な活動を取り入れることとした。

高等学校...各科目に配当する総授業時数のうち10分の5以上を実験・実習(調査・研究,観察・見学を含む)に配当することを原則とし、実践的・体験的な学習活動が中心となるよう配慮した。特に幼稚園や保育所等の乳幼児や身近な高齢者との触れ合いや交流などの実践的な活動を取り入れることとした。

(5) 社会の変化への対応

少子高齢化や情報化の進展等社会の変化に対応し、内容の充実を図った。

中学校...技術分野では、選択領域であった「情報基礎」を「B情報とコンピュータ」に位置付け必修とした。

家庭分野では、選択領域であった「保育」の内容の一部を「B 家族と家庭生活」に位置付け必修とした。

高等学校...子どもを生き育てることの意義を理解する学習,高齢化の進展に対応した高齢者の理解や福祉,介護の基礎などの学習,消費行動と環境とのかかわりに関する学習などについて一層重視することとした。

家庭科、技術・家庭科の内容構成

(小学校)家庭科

学年	内 容		
5	(1) 家庭生活と家族 ・家庭や自分の仕事 ・生活時間と家族への協力 ・家族の触れ合いと団らん	(2) 衣服への関心 ・衣服の働きと着方 ・ボタン付けと洗たく	(3) 生活に役立つ物の製作
6	(4) 食事への関心 ・食品の組合せ ・1食分の食事 (7) ものや金銭の使い方と買い物	(5) 簡単な調理 (米飯とみそ汁)	(6) 住まい方への関心 ・整理・整とんと清掃 ・気持ちよい住まい方 (8) 家族生活の工夫

(中学校)技術・家庭科

学年	履 修 分 野	
	技 術 分 野	家 庭 分 野
1 ~ 3	A 技術とものづくり (1)生活や産業と技術の役割 (2)製作品の設計 (3)工具や機器の使用法と加工技術 (4)機器の仕組みと保守 (5)エネルギーの変換を利用した製作品の設計と製作 (6)作物の栽培 B 情報とコンピュータ (1)情報手段の役割 (2)コンピュータの基本構成と機能 (3)コンピュータの利用 (4)情報通信ネットワーク (5)マルチメディアの活用 (6)プログラムと計測・制御	A 生活の自立と衣食住 (1)中学生の栄養と食事 (2)食品の選択と日常食の調理の基礎 (3)衣服の選択と手入れ (4)室内環境の整備と住まい方 (5)食生活の課題と調理の応用 (6)簡単な衣服の製作 B 家族と家庭生活 (1)自分の成長と家族や家庭生活 (2)幼児の発達と家族 (3)家庭と家族関係 (4)家庭生活と消費 (5)幼児の生活と幼児との触れ合い (6)家庭生活と地域とのかかわり

- ・ 各分野の内容のA及びBそれぞれの(5)及び(6)の項目については、生徒の興味・関心等に応じ、各分野ごとに4項目のうち1又は2項目を選択して履修させる。
- ・ 技術分野および家庭分野の学習内容をバランス良くすべての生徒に履修されるよう配慮する。

(高等学校)家庭科

科目 学年	家 庭 基 礎	家 庭 総 合	生 活 技 術
1 ~ 3	(1) 人の一生と家族・福祉 (2) 家族の生活と健康 (3) 消費生活と環境 (4) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	(1) 人の一生と家族・家庭 (2) 子どもの発達と保育・福祉 (3) 高齢者の生活と福祉 (4) 生活の科学と分化 (5) 消費生活と資源・環境 (6) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動	(1) 人の一生と家族・福祉 (2) 消費生活と環境 (3) 家庭生活と技術革新 (4) 食生活の設計と調理 (5) 衣生活の設計と製作 (6) 住生活の設計とインテリアデザイン (7) ホームプロジェクトと学校家庭クラブ活動 * (3)～(6)については2又は3を選択

現行学習指導要領における情報科(高等学校)について

1 普通教科「情報」のねらい

普通教科「情報」の目標は、情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育成することである。

情報教育の目標の3つの観点である「情報活用の実践力」、「情報の科学的な理解」、「情報産業と社会」をバランス良く育成することである。

2 普通教科「情報」の内容構成

(1) 科目構成

科目	標準単位数
情報A	2
情報B	2
情報C	2

普通教科「情報」は必修教科であり、「情報A」、「情報B」及び「情報C」のうちから1科目をすべての生徒に履修させる科目とする

(2) 内容等

	目標	内容
情報A	コンピュータやネットワークを用いた情報の収集・発信・共有の基盤となる能力を育成する。	(1) 情報を活用するための工夫と情報機器 アイ 問題解決の工夫 アイ 情報伝達の工夫 (2) 情報の収集・発信と情報機器の活用 アイ 情報の検索と共有に適切な情報の表し方 アイ 情報の収集・発信における問題点 (3) 情報の統合的な処理とコンピュータの活用 アイ コンピュータによる情報の統合 アイ 情報機器の統合的な処理 (4) 情報機器の発達と生活の変化 アイ 情報機器の発達とその仕組み アイ 情報化の進歩が生活に及ぼす影響 ウ 情報社会への参加と情報技術の活用
情報B	コンピュータの活用による情報の処理の仕組みや影響を考察し、問題解決に活用する。	(1) 問題解決とコンピュータの活用 アイ 問題解決における手順とコンピュータの活用 アイ コンピュータによる情報処理の特徴 (2) コンピュータの仕組みと働き アイ コンピュータにおける情報の表し方 アイ コンピュータにおける情報の処理 ウ 情報の表し方と処理手順の工夫の必要性 (3) 問題のモデル化とコンピュータを活用した解決 アイ モデル化とシミュレーション アイ 情報の蓄積・管理とデータベースの活用 (4) 情報社会を支える情報技術 アイ 情報通信と計測・制御の技術 アイ 情報技術における人間への配慮 ウ 情報技術の進歩が社会に及ぼす影響
情報C	情報のデジタル化やネットワークの活用による社会の発展に貢献する能力を育成する。	(1) 情報のデジタル化 アイ 情報のデジタル化の仕組み アイ 情報機器の種類と特性 ウ 情報機器を活用した表現方法 (2) 情報通信ネットワークとコミュニケーション アイ 情報通信ネットワークの仕組み アイ 情報通信の効率的な方法 ウ コミュニケーションにおける情報通信ネットワークの活用 (3) 情報の収集・発信と個人の責任 アイ 情報の公開・保護と個人の責任 アイ 情報通信ネットワークを活用した情報の収集・発信 (4) 情報化の進展と社会への影響 アイ 社会で利用されている情報システム アイ 情報化が社会に及ぼす影響

普通教科「情報」の趣旨とねらい

普通教科「情報」は、次のような趣旨に基づいて設定された。

平成10年7月 教育課程審議会答申より

1 教育課程の基準の改善の基本的考え方

(3) 各学校段階・各教科等を通じる主な課題に関する基本的考え方

ウ 情報化への対応

各学校段階を通じ一貫した系統的な情報教育が行われるよう関係教科等の改善充実を図る。各教科等の学習においてコンピュータ等の積極的な活用を図り、小学校では「総合的な学習の時間」など様々な時間でコンピュータ等の情報手段を活用する。中学校では技術・家庭科の中でコンピュータの基礎的な活用技術の習得など情報に関する基礎的内容を必修とし、高等学校では教科「情報」を新設し必修とする。

4 各教科・科目等の内容

(2) 小学校、中学校及び高等学校

xii) 情報

ア 高等学校において、コンピュータや情報通信ネットワークなどの情報手段を適切に活用し、主体的に情報を選択・処理・発信できる能力と情報社会に参加する上での望ましい態度を育成するため、普通教科として「情報」を新設し、必修とする。

イ 教科「情報」に、コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用に重点を置く「情報A」、コンピュータの機能や仕組みの科学的な理解に重点を置く「情報B」、情報通信ネットワークなどの社会における役割や影響の理解に重点を置く「情報C」の3科目を設け、これらの中から1科目を選択的に履修できるようにする。

普通教科「情報」創設の経緯

昭和60年6月26日 臨時教育審議会第一次答申

(提言の概要)

「社会の情報化を真に人々の生活の向上に役立てる上で、人々が主体的な選択により情報を使いこなす力を身に付けることが今後への重要な課題である」として、学校教育における情報化への対応が必要である。

昭和60年8月22日 情報化社会に対応する初等中等教育の在り方に関する調査研究協力者会議第一次審議とりまとめ

(提言の概要)

「情報化の進展と学校教育の在り方、学校教育におけるコンピュータ利用等の基本的考え方、小学校、中学校及び高等学校の各段階におけるコンピュータを利用した学習指導の在り方など」について提言

学校教育本来のねらいを達成すること

新しい資質を育成すること

発達段階に応じた導入

メディアの活用による学校の活性化

昭和61年4月23日 臨時教育審議会第二次答申

(提言の概要)

- ・「情報活用能力」という概念 - 「情報及び情報手段を主体的に選択し活用していくための個人の基礎的な資質」
- が初めて示される。
- ・「情報活用能力」が、「読み、書き、算盤」と並ぶ基礎・基本として位置付けられ、学校教育においてその育成を図ることとされる。
- ・「情報活用能力」は、諸外国で「情報リテラシー」と呼んでいる概念に対応する。
- ・情報化に対応した教育に関する3原則
 - (1) 社会の情報化に備えた教育を本格的に展開する
 - (2) 全ての教育機関の活性化のために情報手段の潜在化を活用する
 - (3) 情報化の影を補い、教育環境の人間化に光を当てる

昭和62年4月1日 臨時教育審議会第三次答申

(提言の概要)

情報化への対応として次の3項目を提言

- (1) 情報モラルの確立
- (2) 情報化社会型システムの確立
- (3) 情報環境の整備

昭和62年8月7日 臨時教育審議会第四次答申

(提言の概要)

情報化への対応として次の4項目を提言

- (1) 情報モラルの確立
- (2) 情報化社会型システムの確立
- (3) 情報手段の活用
- (4) 情報環境の整備

昭和62年12月24日 教育課程審議会答申

(提言の概要)

「社会の情報化に主体的に対応できる基礎的な資質を養う観点から、情報の理解、選択、整理、処理、創造などに必要な能力及びコンピュータ等の情報手段を活用する能力と態度の育成が図られるよう配慮する。なお、その際、情報化のもたらすさまざまな影響にも配慮すること」を提言

平成元年3月15日 学習指導要領改正

- ・小学校：「コンピュータ等に慣れ親しませること」が基本方針
- ・中学校：技術・家庭科の新たな選択領域として「情報基礎」を設置
社会科、数学科、理科、保健体育科の各教科で関連する内容を提示
- ・高等学校

普通教育：数学科、理科、家庭科等にコンピュータ等に関する内容を取り入れる。

職業に関する各教科：それぞれ情報に関する科目が取り入れられる。

- ・全体：教育活動の中でコンピュータ等が積極的に活用されることを促す。

特に、情報活用能力という用語は用いられていないが、関連する教科等で内容が取り入れられ、情報化の進展に対応して改善が図られている

平成8年7月19日 中央教育審議会答申

(提言の概要)

これからの情報社会に生きていく子供たちにどのような教育が必要か、また、教育の改善・充実のためにコンピュータや情報通信ネットワークをどのように生かしていくかの観点から、情報化と教育について推進すべきこととして、次の4点を提示

- (1) 情報教育の体系的な実施
- (2) 情報機器、情報通信ネットワークの活用による学校教育の質的改善
- (3) 高度情報通信社会に対応する「新しい学校」の構築
- (4) 情報社会の「影」の部分への対応

平成9年10月3日 情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議 「第1次報告 体系的な情報教育の実施に向けて一」

(提言の概要)

これからの社会においては、様々な情報手段に翻弄されることなく、情報化の進展に主体的に対応できる能力をすべての子どもたちに育成することが重要である。そこで、これまでの「情報活用能力」の内容との係わりも検討した上で、今後の初等中等教育段階における情報教育で育成すべき「情報活用能力」を以下のように焦点化し、系統的、体系的な情報教育の目標等して位置付けることを提案する。

- ・体系的な情報教育について提言

3つの観点に情報教育の目標を再構築

- (1) 情報活用の実践力
- (2) 情報の科学的な理解
- (3) 情報社会に参画する態度

平成10年7月29日 教育課程審議会答申

(提言の概要)

『各学校段階・各教科等を通じる主な課題に関する基本的考え方の一つとして「情報化への対応」をあげ、高等学校においては、教科『情報』を新設し必修とすること』を提言

平成10年8月5日 情報化の進展に対応した初等中等教育における情報教育の推進等に関する調査研究協力者会議 最終答申

(提言の概要)

第1次答申を受けて、「情報化教育に対応した教育を実現するために必要な教育環境等の条件整備」について提言

平成10年12月14日 小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領改正

小学校段階：各教科や「総合的な学習」の時間等で積極的に情報機器の活用

中学校段階：「技術・家庭」科における技術分野の内容「B 情報とコンピュータ」において、(1)から(4)の項目はすべての生徒に履修させ、(5)及び(6)の項目は選択して履修させることになる。

各教科や「総合的な学習」の時間等で積極的に情報機器の活用

平成11年3月29日 高等学校学習指導要領改正

各種答申や報告を踏まえて、普通教科「情報」及び専門教科「情報」が新設

高等学校段階：普通教育：普通教科「情報」が必修教科となる

職業に関する各教科：専門教科「情報」が新設

現行の学習指導要領の成果と課題，見直しに関する意見（例） - 家庭，技術・家庭，情報 -
（抜粋）

家庭，技術・家庭，情報

<p>教育課程部会等での意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校卒業で一人前という社会をもう一度取り戻すため，ものづくり教育や職業観を重視し，子どもたちの達成感やものづくりへの個性の反映などを実際に学び取らせることが必要。 ・ 日本のものづくりを支えている力を維持する方策の検討が必要。 ・ 生活者としての技術教育にとどまらず，科学技術のガバナンスを教えることがなされていないなど，主権者としての国民を育てるという観点の教育がされていない。 ・ 国際化，IT化，知的財産権，環境の問題，企業の社会的責任などが日本の社会全体として遅れている。世界的な事象がある程度理解できる素養を身に付ける必要がある。 ・ 家庭科や書道といった，生きていく力を養う教科は減らすべきではない。 ・ ITの全面的な展開に子どもたちがのめりこんで，そこから離れられない状況があるが，これに対し，IT教育を無条件に進めることがいいのか，対極の考え方を示すのがいいのか。
--------------------	---

家庭，技術・家庭

<p>主な論点の柱</p>	<p>調査結果等に基づく成果と課題（例）</p>
<p>知識や技能等の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活に必要な基礎的な技術を身に付けている。 ・ 生活や技術に関する基礎的な事項や生活と技術とのかわりについて理解し，知識を身に付けている。 	<p>【家庭分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の家庭科の学習が「よく分かる」「だいたい分かる」と答えた児童の割合は70.2%である。 ・ 中学校の内容「A(1)中学生の食事と栄養」の栄養素に関する内容や「A(3)衣服の選択と手入れ」の手入れと補修に関する内容において指導の工夫等が必要。 ・ 生活経験の違いや生活技能の低下に対応するための，実習等の時間の確保が課題である。 ・ 小，中，高等学校の学習の系統性について一層の検討が必要。 ・ 家庭生活の状況が変化しており，食に関する指導の充実，幼児や高齢者との交流や介護の基礎などの指導の充実等が課題である。 ・ 販売方法が複雑化する状況の中で，消費者トラブルや若者のカード破産等について，消費者教育の充実が課題である。 <p>【技術分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 内容「A技術とものづくり」と比較して「B情報とコンピュータ」の知識や技能の習得状況が良好である傾向が見られる。 ・ 他教科との連携に配慮した指導計画の作成が課題である。 ・ 「B情報とコンピュータ」と高等学校の「情報」に関する教科・科目との連携が課題である。 ・ 日常生活におけるコンピュータの普及に伴い，操作の方法の指導をどう扱うか，情報モラルについての指導を充実していくことが課題である。
<p>思考力や表現力等の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活について見直し，課題を見つけ，その解決を目指して自分なりに工夫し創造する。 	<p>【家庭分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の家庭科の学習を家庭生活で「とても役に立つ」「わりと役に立つ」と思う児童の割合は76.0%である。 ・ 学習した知識や技能を実生活で生かす指導の工夫が課題である。 ・ 小学校の「(8)家庭生活の工夫」における，題材構成の一層の工夫や家庭との連携が課題である。 <p>【技術分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒のアイデアを生かせる題材の工夫と，実生活に生かす指導の工夫が課題である。
<p>学ぶ意欲等の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活や技術について関心を持ち，生活を充実向上するために進んで実践しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の家庭科を「とても好き」「まあ好き」と回答した児童は63.7%である。 ・ 中学校の技術・家庭を「とても好き」「まあ好き」と回答した生徒は51.8%である。 ・ ものづくりなど実践的・体験的な学習活動が多いので，児童生徒は完成する喜びや体験する楽しさを感じている。 <p>【家庭分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 実践的な態度の育成には，家庭生活に関心を向け主体的に生活に関わろうとする意欲を育てる指導の工夫が課題である。 <p>【技術分野】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 将来の職業としてIT関係や技術開発等を選ぶ中学生の割合が，他国と比較して少ない状況にある。

情報

主な論点の柱	調査結果等に基づく成果と課題(例)
<p>知識や技能等の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付けている。 ・ 情報の収集・選択・処理を適切に行うことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各科目とも、知識と技能の習得状況はおおむね良好。 ・ 生徒の情報機器の操作技能等は向上している。 ・ コンピュータの操作の仕方など、情報技術の習得に重きを置いた指導が多く、情報手段の特性や情報を適切に扱うための基礎的な理論、情報モラル、マナーや遵法精神などを含むバランスのとれた情報活用能力の育成が課題。 ・ 中学校技術「B 情報とコンピュータ」との連携が課題。 ・ 国語や数学など、他教科等との連携の強化を図る必要がある。
<p>思考力や表現力等の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報活用の方法を工夫したり、改善したりするとともに、情報モラルを踏まえた適切な判断をすることができる。 ・ 情報を目的に応じて表現することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各科目とも、思考力や表現力を育むための指導計画や教材の工夫が行われている。 ・ 情報を目的に応じて表現する力の育成については、おおむね良好。 ・ 体験的な活動を通じた情報モラルを育成する教材や指導法の工夫が課題。 ・ 発達段階に応じた問題解決能力を育成する教材や指導法の工夫が課題。 ・ コンピュータの操作の仕方など、情報技術の習得に重きを置いた指導に占める時間が多く、合理的判断や創造的思考力、表現・コミュニケーションなどに役立つ力の育成が必要。
<p>学ぶ意欲等の育成</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 情報や情報社会に関心を持ち、身の回りの問題を解決するために進んで情報及び情報技術を活用し、情報社会に主体的に対応しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 実習等の教材や指導計画の工夫によって、生徒の学習意欲はおおむね高い。 ・ 学ぶ意欲を育む指導については、おおむね良好。 ・ コンピュータの操作の仕方などの情報技術を習得している生徒への手だてが不十分。